

令和6年度第2回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

1 日程及び議題

日 時：令和6年10月6日（日） 14:00～15:30

場 所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議 題：

- (1) 第10期子ども委員の選考報告
- (2) 令和6年度子ども条例フォーラムの開催報告及び次年度について
- (3) 第9期子ども委員への感謝状贈呈及び子ども委員からの挨拶
- (4) 第10期子ども委員への委嘱状交付
- (5) 記念写真撮影

2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：(1) 第10期子ども委員の選考報告
資 料：【資料1】

●事務局から第10期の子ども委員の選考結果等について説明した。

- ・子ども委員の募集は2年に一度の頻度で行われ、県内の高校生を対象に公募
- ・選考委員会を開催し、作文審査と面接審査により実施
- ・第10期委員として5名の高校1年生を選任

事務局説明：(2) 令和6年度子ども条例フォーラムの開催報告及び次年度について
資 料：【資料2】

●事務局から令和6年度子ども条例フォーラムについて資料2による開催報告を行い、来年度の事業に向けて委員からのご助言をいただいた。

○堂本委員

募集人数の想定よりも実際の参加者が少ない状況が続いていることを改善するためには、参加したことのある子どもたちの実際の声が必要だと思う。今年度のフォーラムにおいても、子ども達がフォーラム終了後に充実感を感じられたということが大変重要なポイントで、次にいかに繋げるかという視点が大切だと思う。

○太内委員

「ディスカッション」という表現が中高生には堅い印象を与えるかもしれない。「グループトーク」や「意見の交換」など、平易な表現にして募集するのも良いと思う。また、会場に参加者を集めるのが難しいとしたら、県内の学校にファシリテーターが出向いて実施する方法もあると思う。休日に生徒が参加するよりも、授業の1つとして参加できれば参加ハードルが低くなるので。

○戸田委員

今回は都合がつかずフォーラムに不参加でしたが、高校1年、2年生の時には参加した。今年度実施した事業について、客観的に判断すると、去年までの反省を生かした事業内容になっていて、すごく良かったと思う。本当に自分も参加したかった。次年度に向けては、参加しようかどうか考える生徒にとって、自分の知っている人（後輩や先輩）の参加情報が分かると、参加のハードルも下がるのではないかと感じた。

○島本委員

今回の周知では、1枚のチラシだったが、これまでは過去のフォーラムの開催概要を知ることができる冊子のような形だった。このため、報告書形式のようなものの方が広報物としては良いと思う。参加したことのない生徒にとって、フォーラムの中身を知ることができた方が参加しやすくなるのではないかな。

○平田委員

冊子などで事業の様子を伝えるだけでなく、動画もあった方が様子が伝わって良いと思う。

○佐野委員

今回は、ディスカッションをする前に参加者同士が打ち解ける時間（好きな言葉を書き込むワークショップ）が設けられていて、それが良かった。そのお陰でディスカッションがスムーズだった。

○太内委員

チラシを見たときに、文字が多いという印象を受ける。生徒達がにこやかにディスカッションしているような写真をメインにする等、写真はたくさん使った方が良いと思う。

○山田委員長

フォーラムを毎年開催してきており、足跡が残っていくことは大切。毎年の積み重ねを、どう見せていくか、その点は大事だと思う。

○中西委員

見せ方という点では、少し難しいかもしれないが、漫画形式で伝えるというのも一つの方法としてはあると思う。

○小川委員

事業自体の意義を感じて参加するというのも動機の一つだと思うが、過去に参加したことのある人から勧められることも大きな参加のきっかけになり得る。

○白石委員

次世代リーダーを養成するような意味合いもあるのではないかと思います。フォーラムの結果を、もう少し分かりやすく伝えていくことが重要で、学校の枠を越えた意見交換などもできれば良い。

○中西委員

この推進会議の委員も高知市内の人が多く、フォーラムの参加校も市内が中心の状況。このため、何年かに1回は、幡多で開催してみたりするなど広域で事業を考えると面白いかもしれない。

本日の協議では結果を次にどうつなげるかと言う部分が、印象に残った。

【各委員からのご意見を受けての事務局からの回答】

- ・これまでは当日のフォーラムをどのように実施するかという点に目が向いていたところが大きい。来年度は、フォーラム開催後の余韻をどのように次につなげるか、実施後の周知の仕方等も含めて事業を検討していく。
- ・開催規模感は、こども基本法や子ども条例の理念からも、こども達が自分の考えをしっかりと伝えられることが重要だと考えている。このため、無理なくディスカッションが行える規模感が適切であり、ここ数年は10数名の参加であることを鑑みて、まず20名以上の参加を目指して取り組みたい。なお、人数が多くなっても1つのテーマで2グループ、3グループをつくるなど対応は可能と思われる。高校生だけでなく中学生の参加も大いに歓迎。

事務局説明：（３）第９期子ども委員への感謝状贈呈及び子ども委員からの挨拶

- 第９期の子ども委員が令和６年１０月１２日付けで退任することから、５名に感謝状を贈呈した。その後５名から、委員会に対して感謝の意が伝えられた。

事務局説明：（４）第１０期子ども委員への委嘱状交付

- 第１０期の子ども委員が令和６年１０月１３日付けで就任することから、当日見学に来ていた４名に辞令書を交付した。その後、４名から就任の挨拶が行われた。

事務局説明：（５）記念写真撮影

- 第９期の子ども委員５名を囲んで記念写真を撮影した。

以上